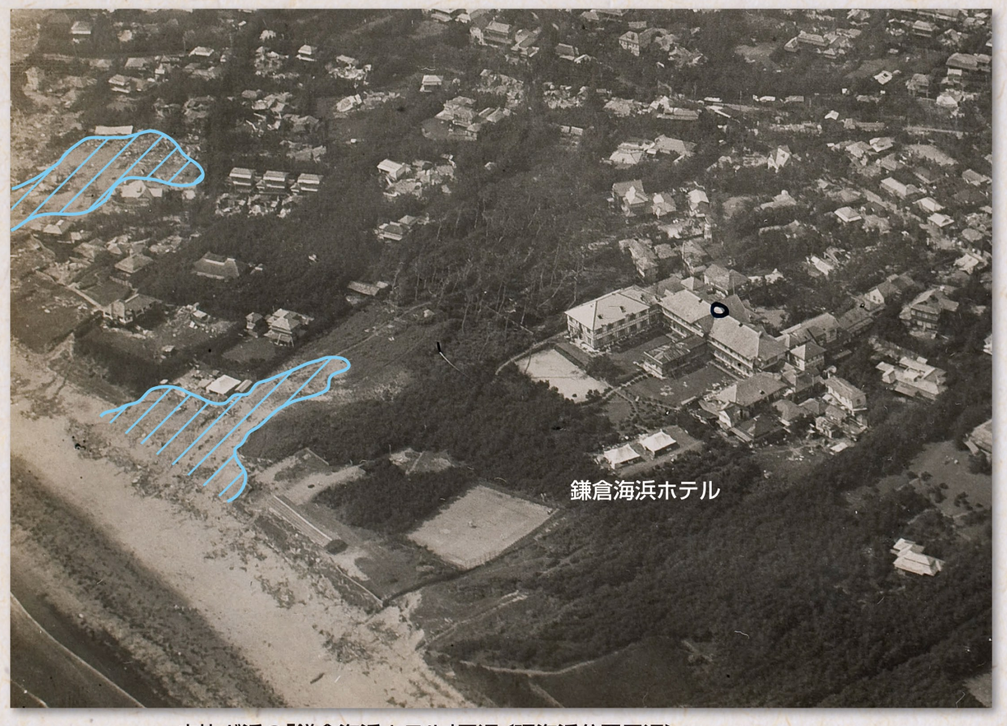
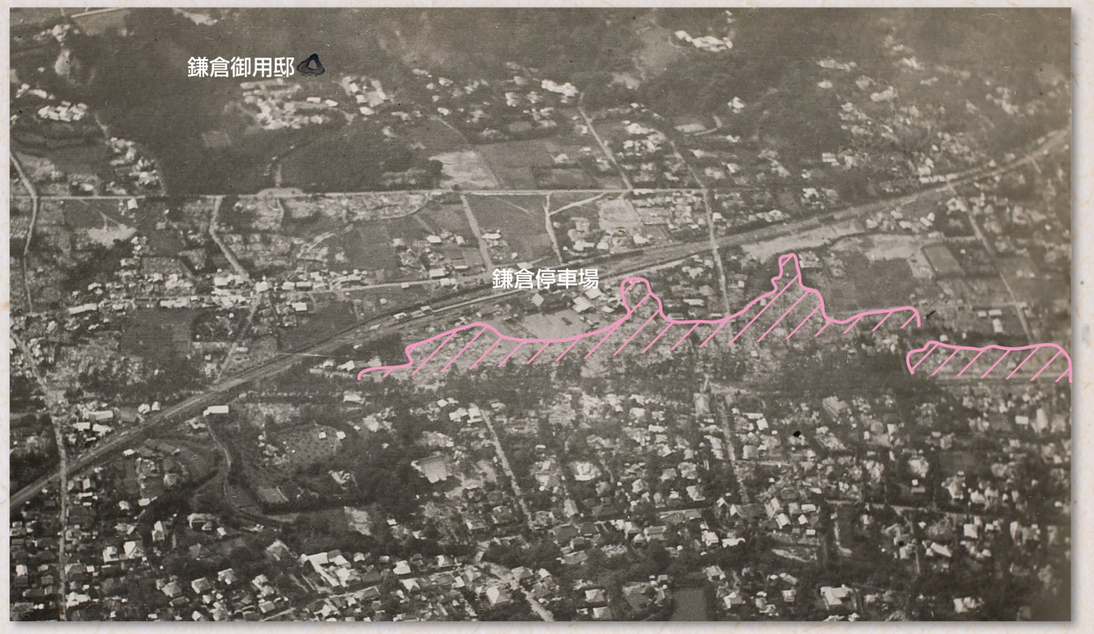
大正関東地震時の鎌倉（大正12年9月9日 海軍航空隊撮影）

：推定津波浸水範囲
：推定延焼範囲



由比ガ浜の「鎌倉海浜ホテル」周辺〔現海浜公園周辺〕（防衛省防衛研究所蔵）

材木座（防衛省防衛研究所蔵）
（光明寺総門前まで津波は襲来した）



「鎌倉停車場」〔現 JR 鎌倉駅〕・「御用邸」〔現市立御成小学校・市役所〕周辺（防衛省防衛研究所蔵）
（「鎌倉停車場」周辺と若宮大路八幡宮前付近の火災の跡）

●鎌倉での「大正関東地震」

大正12年(1923)９月１日、午前11時58分45秒、震度７クラスの烈震が関東南部で発生し、一瞬のうちに鎌倉全域に激甚被害を及ぼしました。『鎌倉震災誌』(昭和６年 鎌倉町役場刊)によれば、当時の被害は鎌倉町で全壊1,455戸、半壊1,549戸、埋没した家８戸。さらに津波による流失113戸、地震直後の火災で全焼が443戸にのぼり、半焼は２戸で、死者412名、重傷者341名を数えました。大船方面(小坂村・玉縄村)の被害は全壊450戸、半壊80戸、死者18名、負傷者は23名。腰越津村の被害は全半壊合せて310戸、死者70名でした。古老の話によれば腰越にも津波が襲来し、それによる死者も数名あったとのことです。深沢村もかなりの被害を蒙ったようですが、詳細は不明です。

津波は第２震の前後２回にわたって襲来しました。被害は１回目よりも２回目の方がはるかに大きく、海水は急激に引き、やがて沖合から黒光りした大波が押し寄せたといいます。とくに坂ノ下では、稲瀬川付近で第２震のおよそ20分後沖合から大波が大音響を立てて襲来し、護岸や多くの家屋が流されたと伝えられています（表紙写真）。

ひとびとの暮らしや生命以外にも、山稜部や名所旧跡、公的施設、寺社の被害も甚大で、鎌倉御用邸のほか鶴岡八幡宮、建長寺、円覚寺、英勝寺などで建築物が倒壊しました。ことに鎌倉大仏(国宝銅造阿弥陀如来坐像)は、尊像が約46cm南(前面)にせり出し、台座の右後ろ側が約10cm、前側が約45cm地中にめり込んだといいます。ところが、翌13年１月19日にもう一度強震が発生した際、お像は全体が30cmほど後退しています。

実際鎌倉では、90年前に大地震とそれに伴う大津波が発生しています。強い揺れを感じた時は、身の安全を確認したうえで、早く高いところへ避難しましょう。

※当時行政区は、鎌倉町・小坂村・玉縄村・腰越津村・深沢村に分かれていました。